

令和5年度 学校関係者評価委員会 評価コメント

1. 教育理念 目的 育成人材像等

ホームページの刷新を現在行っており、SNSを活用した情報発信への姿勢や報道メディアへの積極的アプローチは本校の理念具現化において、有効な成果につながるものと判断できる。その上で、豊野学園が抱く「豊野高等専修学校 専門課程の価値、どのような学生を育てるのかを情報発信しようとしている」姿勢は評価できる。今後のさらに充実した取り組みを行いたい。次年度への継続した課題でもある。

「専修学校の専門課程」から「職業実践専門課程」への高度な人材育成に変革を進めようとしている本校の姿勢は時代の要請に適切に対応しながら明確に確立しようとしており、評価できる。教育目標や育成人材の確実な実現の手立てとして、2年制をもとに、より長期な履修制度の導入も検討する必要があるのではないかと。

2. 学校運営

毎年開催される、理事会・評議員会において、「運営方針・予算編成」とともに、学校の将来的な構想や中長期構想計画に基づいて適切に刷新されていることは評価できる。事業計画を策定するにあたっては、進捗状況等も含め、実施内容の検討も行われている。それが、次年度の事業計画に反映されている。

運営組織や意思決定機能は、学校の組織体制や業務体制における組織図等で明確化されている。教職員人事は適正に行われていると判断できる。就業規則等も整備されており、適切に運用されているものと認識している。「教務・財務等」に係わる業務分担や、決済システム及び意思決定システムも的確に整備され機能しているものと判断できる。

コンプライアンス体制は、「危機管理マニュアル」「個人情報管理マニュアル」など体制の整備が行われていることを評価するが、毎年度の見直しを継続していく。ホームページやSNSを利用した情報発信により学校の情報公開は以前よりも改善されており、継続して改善を図っていく。

3. 教育活動

教育の質の確保を維持するために、「アドミッションポリシー」「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」の3つのポリシーを明確にし、学生の主体的な学びを保障しようとする方向性をもって取り組んでいる。専門課程の学生であっても学習を進めるうえでの基本的な「パソコンなどの基本的技能」を確実に修得させるための教育課程を編成していることは評価できる。

業界が求める人材像を把握するために、中小企業同友会等との連携をとり、学校の様子を参観してもらったり、情報交換を行っていることは今後も継続していきたい。そのことにより、より充実した就職支援につながる取り組みを進めたい。

学校と関連する分野の企業や業界団体との連携により、シラバス及びカリキュラムは適切に作成、見直しがされているものと評価できるが、継続して取り組みを行っていく。

卒業生の中から起業する学生が生まれており、後輩にとって有意義な情報提供となっている。さらに、業界や行政との連携をすすめ、インターンシップ等の取り組みにおいてはさらなる充実をはかる必要があるものと判断する。

成績評価・単位認定の基準は、演習科目・実技科目それぞれにおいて適切に評価されており、その結果は単位認定にまで計画的に実施されており、明確にされていると評価できる。

教育能力の高い資質や実務的専門性を備えた教員の確保は学習環境を整えるための重要な要素である。そのための教員の研修「技術力向上」「指導力向上」を目的とした「校内研修」「校外研修」にも積極的に取り組んでいくとが必要である。

4. 教育成果

就職支援の前段階として、学生の日常的な生活における教育相談体制をいかに充実させるかが大きな課題となるが、本校においては、教育カウンセラーの導入やケースワーカー及びベテランの教育相談員、さらには相談窓口となる教育相談コーディネーターの配置などかなり充実した教育相談体制が確立されているものと評価できる。現状では就職率はほぼ100%であり、退学率も低い。しかし、卒業後の学生の状況について追跡調査は充実させる必要があると判断する。卒業後の動向を把握し、学生に対する教育方法の改善に活かしていくことは有効である。今後も積極的に取り組んでいきたい。

就職に関しては、ハローワークでの実務経験の長い就職支援専門員が配置されており、一般就労はもとより、就労移行支援等も必要とする学生に対する体制作りに取り組んでいることは評価に値する。

5. 学生支援

「4. 教育成果」でも触れたが、「教育相談体制の充実」は本校の強みの一つと認識している。臨床心理士資格をもつ「カウンセラー」の位置づけや、「教育相談コーディネーター」及び「ベテランの教育相談員」「専任の就職相談員」等の配置は有効に機能していると判断できる。事前での学生の状況把握や教員間での情報共有など今後も丁寧に対応していく必要があると判断できる。保護者の相談にもきめ細やかに対応できていることは評価したい。国も力を入れている「リカレント教育」「リスクリング」に対応した「社会人の学びの場の提供」は今後さらに必要性が増すものと判断できる。本校が提供できる「開設講座」について十分検討し今後も前向きに取り組んでいきたい。

6. 教育環境

専門棟の「大規模リフォーム」が実施された。「情報デザインコース」「服飾デザインコース」それぞれにおける学びやすい環境の整備がなされているものと評価できる。今後は多様な学びのニーズに応えるべき「専門性の高い教員の配置」に力を入れていく必要がある。連携している多様な企業におけるインターンシップ等、企業の持つ環境を活かした実習や校外研修の場として有効利用が図られるよう努力していきたい。

防災に対する体制整備は、高等課程と連携した「危機管理マニュアル」をもとに、長野市消防局豊野分署指導による消防計画に基づいた年間2回の火災訓練、地震に対する訓練が

実施されており、非常時の避難誘導など継続的に実施をして被害防止に万全を尽くしている。

7. 学生募集

他の専門学校にない、本校特有の高等課程からの入学生の募集は、高等課程3年間、専門課程2年間を利用した5年間での社会人としての人材育成のためのシステムとして評価できる。

令和2年度から設定された「ディプロマポリシー」「アドミッションポリシー」「カリキュラムポリシー」を公開しており、高校生の志望動機や学習意欲の向上に役立つものとして評価する。「AO入試」も実施しており、志望する生徒の意欲や目的を事前に把握するために有効である。オープンキャンパスの実施、授業体験、入学前教育相談などを行い、進学 mismatches を防ぐなど適正な学生募集が行われていると思う。

ホームページ等における学校案内や学生募集の内容等を発信しているが、情報の質・量については改善の余地があると評価した。今後の充実を一層はかってほしい。情報デザインコースは令和3年度に設置されたものであり、教育成果については今後も見守って行きたい。

8. 財務

毎年度2回開催される「理事会」「評議員会」において監査員による監査を受けている。法人役員会において監査報告が協議され客観性に基づいているとともに、「経常収支差額」は常にプラスであり財務基盤は安定していると評価できる。また、規程に従い財務情報の開示も行っており評価できる。専門課程学生の在籍数の増加をはかることがさらなる財務基盤の安定に必要な対策といえる。現在2年制の専門課程の運営を行っているが内容の充実も考慮し、3年制のコースの設定や専科の設定も考慮していく必要があるのではないかな。今後の検討課題としていきたい。

9. 法令の遵守

長野県の私学所轄部署「県民文化部 県民の学び支援課」の指導を得ながら、校長・副校長(2名)・理事長による戦略会議において、適正な運営がなされていると認める。必要に応じて、理事会の承認を得ていることも評価できる。

個人情報の管理については、「豊野学園 個人情報保護方針」を遵守して行っていると認められる。自己評価結果、関係者評価結果は公開されており、学校のホームページ上で閲覧することができる点は評価に値する。

10. 社会貢献・地域貢献

2019年の台風災害を契機として、ボランティア活動には積極的に参加していることは評価に値する。

また、地域貢献として「各種公開講座」を積極的に開催していることは評価できる。

11. 国際貢献

留学生の受け入れや、学生の海外留学等において、その方針は示されているが現状では実施されてはいない。今後、現在つながりのあるモンゴルの高等学校及び大学等との連携において、発展的な構想を構築していくことが良いと判断する。